

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	02-01-04-01
事務事業名	生きがい創造事業	根拠法令・要綱等	生きがいと創造の事業実施要綱 備前市シルバーカード交付要綱
事業開始年度	平成16年度	問合せ先	担当課(室) 介護福祉課 職・氏名 高齢者福祉係長・春名美郎 電話 64-1827
総合計画	大項目 基本目標	健康でやさしさあふれるまちづくり	
	中項目 基本施策	やさしさあふれるまちづくり	
	小項目 施策	高齢者福祉	

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	生きがいと創造の事業：老人クラブ会員 シルバーカード交付事業：65歳以上高齢者
目的 (何のために)	在宅高齢者の知識と経験を生かし、その能力と意欲に応じた生産又は創造的活動によって生きがいの高揚を図ることを目的とする。 シルバーカードの発行により、家に閉じこもりがちな高齢者が外出するきっかけをつくる。
行政活動 (どのような方法で)	生きがいと創造事業の活動に対し補助金を交付する。各文化教室の参加を広報する。 シルバーカードの広報、発行をする。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	高齢者の外出や社会参加促進を図り、社会的孤立感を解消し、生きがいを持って生活できるようにする。

事業の実績						
活動実績	実施項目		平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	陶芸教室教室生	人	27	27	21	
	木彫教室教室生	人	28	28	23	
	園芸教室教室生	人	24	26	23	
	シルバーカード発行	枚	50	111	152	
	事業費	直接事業費		424	455	424
		人件費	千円	500	920	815
		事業費計		924	1,375	1,239
財源	国県支出金		282	282	254	
	受益者負担	千円				
	一般財源		642	1,093	985	
必要人員		人	0.10	0.10	0.11	
結果指標	結果指標名		平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	陶芸教室教室生	説明				
	結果指標量	人	27	27	21	
	対前年比	%	-	100.0%	77.8%	
	活動コスト	円	406,000	393,000	315,000	
単位当たりコスト	円	15,037	14,556	15,000		
結果指標	木彫教室教室生	説明				
	結果指標量	人	28	28	23	
	対前年比	%	-	100.0%	82.1%	
	活動コスト	円	286,000	273,000	195,000	
	単位当たりコスト	円	10,214	9,750	8,478	

事業の成果			
成果指標名	受講率	式又は説明	各教室の教室生の定員は30人づつであり、受講率向上をめざす。受講者数/定員×100
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	88	90	74
対前年比		102.27%	82.22%
到達目標値	80	到達目標年度	平成22年度



事業の目的、対象、内容、コストを考慮しながら目的・意欲に合わせた行政活動の計画を立てる。事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行う。事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行う。事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行う。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
行政活動	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	社会参加促進や生きがいをもつことにより、閉じこもりがなくなり健康増進につながる。	
	<input type="checkbox"/> 事業の意図する成果		
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある		
	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
市の関与	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	効率性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難	高齢者の増加により、シルバーカード発行枚数が増加した。生きがい創造事業は、老人クラブに対して、補助内容の周知と指導を徹底した。	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
職	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善している		
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A-E>	C
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	生きがい創造事業は平成19年度から、運営を老人クラブへの委託から補助金に切り替え、自主運営を促している。能力と意欲に応じた活動が行えているが、受講者が固定化し減少しているため、老人クラブの会議等機会があるたびに広報をし、受講者を増やすことが必要である。	
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている			

平成20年度の状況		説明	生きがい創造事業は老人クラブの自主運営を促しながらも、孤立しないよう支援を続ける。一部の会員のみ利用となっているので、老人クラブの会議等で積極的に広報をし、新規受講者の掘り起こしを行う。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 22	結果指標量	25
成果指標量	78	成果指標量	78

総合評価		評価区分 <A-E>	C
高齢者が創造的活動を通じて生きがいを持って生活することは、介護予防の観点からも重要である。教室については自主運営を促しながらも、孤立しないよう支援が必要である。			

平成21年度以降の方向性		説明	平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	教室のPRをするなど、受講生増加に向けて対策を図る。	毎年度	高齢者の介護予防が図られる。